

サッポログループ
地域・社会の
発展とともに
140年



サッポロホールディングス株式会社

サッポログループ 地域・社会の 発展とともに 140年

サッポログループは、1876年に北海道で開業した開拓使麦酒醸造所を前身とし、今年で140周年を迎えます。今では国内酒類事業をはじめ、国際事業、食品・飲料事業、外食事業、不動産事業を展開する企業グループとなりました。

また、海外においても北米と東南アジアを中心に事業展開を推進し、国内外でかかわりのある国や地域の発展とともに社会貢献、環境保全活動に取り組んできました。

今後も「潤いを創造し 豊かさに貢献する」を経営理念に掲げて、持続的な成長を実現するとともに、地域のニーズに合った活動に、従業員一人ひとりが取り組めるグループであり続けたいと考えています。



サッポロホールディングス株式会社
代表取締役社長 兼 グループCEO

上條 賢

Contents

- 1 … トップメッセージ
- 2 … サッポログループのプロフィール
- 3 … 「社会とのつながり」3つのテーマ
🚧①地域貢献 🌱②次世代育成 🍷③環境保全
- 7 … トピックス – サッポログループの挑戦 –
挑戦1 「原料へのこだわり」から、新たな価値へ!
挑戦2 ダイバーシティの推進“越境せよ!”

経営理念

「潤いを創造し 豊かさに貢献する」

経営
基本方針

サッポログループは、ステークホルダーの信頼を高める誠実な企業活動を実践し、持続的な企業価値の向上をめざします

事業
ドメイン

グループが保有する資産や強みを活かした事業展開を図る領域として、「食品価値創造事業」、「快適空間創造事業」の2つを事業ドメインと位置付けて、事業の奥行きを深め、幅を拡大し、成長と収益向上を実現します

食品価値創造事業

快適空間創造事業

国内酒類事業

「黒ラベル」「エビス」をはじめとしたビールカテゴリー強化を進めるとともに、新ジャンル「麦とホップ The gold」や日本ワイン「グランポレール」、「男梅サワー」など個性あふれる商品群でお客様のニーズに応えていきます。



国際事業

北米とベトナムを起点とした東南アジアを中心に事業展開し、世界各地で「サッポロ」ブランドのさらなる浸透を進めていきます。米国では、新たに業務用果汁飲料製造の大手であるカントリーピュアフーズを傘下に加え、事業の拡大を図ります。



食品・飲料事業

レモン・スープを中心とした主力ブランド強化とともに、技術や素材を活かした新しい価値を提案していきます。また、外食事業は「カフェ・ド・ワリエ」の展開を推進。海外事業では、アジアを中心に「POKKA」ブランドの積極的な展開を図っていきます。



外食事業

世界に日本のビヤホール文化を発信していきます。国内では「銀座ライオン」「エビスバー」の新規出店、海外ではシンガポールにてビヤホールを積極的に拡大していきます。新たに、注目の日本ワインが楽しめる「グランポレール ワインバー トーキョー」をオープンしました。



ビヤホールライオン 銀座七丁目店

不動産事業

「恵比寿ガーデンプレイス」「サッポロファクトリー」そして、本年開業予定の「銀座プレイス」を中心に保有資産の魅力を高め、「まちづくり」を通じた持続的成長を図ることで、グループの収益基盤強化に貢献します。



恵比寿ガーデンプレイス

サッポログループの140年のあゆみ

1876年

「開拓使麦酒醸造所」開業

北海道開拓使のビール工場として「開拓使麦酒醸造所」が札幌に誕生。1889年には、現在の恵比寿ガーデンプレイスの地に「日本麦酒醸造会社」の工場が竣工し、翌年「恵比寿ビール」を発売しました。



開拓使麦酒醸造所

1899年

日本初のビヤホール「恵比寿ビヤホール」東京銀座に誕生

「恵比寿ビール」の宣伝のため、現在の東京・銀座8丁目にビヤホールを開業。現在の「銀座ライオン」のルーツです。



1905年頃の恵比寿ビヤホール

1957年

ニッカレモン株式会社（後にポッカコーポレーションに社名変更）を設立

「レモンを手軽に」と考え、瓶入りレモン果汁の製造販売を開始。以後「ポッカレモン」として展開しています。



1960年頃の「ポッカレモン」

1994年

新たな複合商業施設「恵比寿ガーデンプレイス」誕生

1993年、札幌工場跡地に「サッポロファクトリー」、翌年、恵比寿工場跡地に「恵比寿ガーデンプレイス」を開業。グループの保有資産を活かした複合経営がスタートしました。



恵比寿ガーデンプレイス

2003年

純粋持株会社「サッポロホールディングス(株)」誕生

「酒類」「飲料」「外食」「不動産」の各事業会社を傘下とする新しいグループ体制に移行しました。



SAPPORO

サッポロホールディングス株式会社

2006年

SLEEMAN BREWERIES LTD. 「スリーマン」がグループに加入

カナダのビールメーカー「スリーマン」をグループに迎え、1984年に設立したサッポロUSAとともに、北米市場での地位を強化しました。



2011年

日本のビールメーカー初の自社ビール工場をベトナムに竣工

ビール需要の伸長が著しいベトナム市場をねらい工場を建設。同国を起点に東南アジアへ事業拡大を図っています。



サッポロベトナム工場

2013年

ポッカサッポロフード&ビバレッジが事業開始

ポッカコーポレーションとサッポロ飲料が経営統合し、食品・飲料事業を担う新会社として事業を開始しました。

おいしい!がある
pokka Sapporo

地域・社会とのつながり

サッポログループでは創業以来、事業を展開する国や地域の支援に感謝し、コミュニケーションを取りながら地域・社会に貢献してきました。
今後も、全従業員で主体的に、継続的に地域に根ざした社会貢献活動に取り組んでいきます。

地域貢献

物産品の消費促進

情報発信

被災地支援・東北復興支援

地域活動

地域との協働

地域の強みや文化・伝統を理解し、食や観光のPRやイベントなどの取り組みを支援することで地域の発展に貢献していきます。
また東日本大震災からの一日も早い復興を願い、今後も復興支援活動を継続していきます。

→ 詳しくは ④ ページへ

サッポログループでは、地域・社会の皆様とともに発展することを願って「地域貢献」「次世代育成」「環境保全」の3つのテーマを掲げ、地域・社会貢献活動に取り組んでいきます。

次世代育成

食育

適正飲酒啓発活動

青少年育成

豊かな社会づくり

「食のメーカー」としての強みを活かして、食育をメインに健全な青少年育成活動に注力していきます。

→ 詳しくは ⑤ ページへ

環境保全

地球温暖化防止

3Rの推進

自然との共生

持続可能な社会の実現

2030年に向け、事業を展開する国や地域と協働して地球環境を守る中期目標を策定しています。
革新的な技術・手段の採用に努め、環境に配慮した商品とサービスの開発・提供を今後も続けていきます。

→ 詳しくは ⑥ ページへ

物産品の消費促進

Case 01

北海道の食材を応援

サッポロライオンでは、北海道との連携協定に基づき道内の店舗で、各地の食材を使った料理を月替わりで提供しています。インターネットやテレビなどでも紹介し、地産地消を進めています。



八雲生ハムとかぶのマリネ サラダ仕立て

Case 02

名古屋で“クラフト”文化を盛り上げる

ビール醸造所を併設する名古屋ビール園 浩養園では、施設内で製造した樽詰発泡酒「香り広がるクラフトリモーネ」を限定販売しました。ポッカサッポロのレモン果汁とサッポロビールのビール醸造技術で開発したこの商品を名古屋の皆様楽しんでいただきました。



情報発信

Case 03

“札幌麦酒祭り”“恵比寿麦酒祭り”で日本のビール文化をより豊かなものに

歴史的につながりの深い「札幌」と「恵比寿」において“麦酒祭り”を開催し、毎年25万人を超えるお客様にビールを楽しんでいただいています。



恵比寿麦酒祭り

銀座から「新しい東北」を発信

サッポロ不動産は、銀座5丁目にある2016年開業予定の「GINZA PLACE(銀座プレイス)」の建築工事仮囲いの壁面を活用し、希望ある未来を願って東北地方の歴史・文化や食、観光をPRしました。



被災地支援・東北復興支援

Case 04

ネパール支援

サッポログループでは、ネパール大地震の被災地支援として、従業員募金も含む約200万円を、大使館所在地である目黒区を通じネパール大使館と支援活動を行うNPO法人ジャパン・プラットフォームに寄付しました。



目黒区庁舎での贈呈式

東北産ホップを100%使用したビールで支援

サッポロビール独自の取り組みである“協働契約栽培”の東北産ホップを100%使用した「サッポロ生ビール黒ラベル東北ホップ100%」を2015年も発売し、売り上げの一部を被災地に花を咲かせる活動「スマイルとうほくプロジェクト」に寄付しました。



地域活動

Case 05

グループ従業員の全員参加をめざす“地域の清掃活動”

サッポログループでは、すべての従業員が参加することをめざして、事業展開をしているエリアで清掃活動を行っています。



Case 06

札幌でのドイツ領事業務委嘱～日独の友好関係に協力～

「オクトーバーフェスト」で有名なミュンヘン市と姉妹都市である札幌において、ビールの国ドイツとの交流のために、サッポロビールでは北海道本社代表が領事業務を執り行う「名誉領事」に任命され、毎年約200件の手続きを行っています。



食育



Case 01

レモン調味料のパイオニアだからできる「レモンで食育」

ポッカサッポロでは、“体にやさしい”レモンを使った親子で受講できる食育教室を、「ポッカレモン」ブランド発祥の地である名古屋を中心に、自治体などと協力しながら開催しています。



Case 02

レモンで食育「ひろしま給食100万食プロジェクト」

ポッカサッポロは、レモンの収穫量日本一の広島県とパートナーシップ協定を締結し、広島ならではの給食メニューで食育を行うプロジェクトにおいて、レモンを活用した給食開発に協力しました。

東北の将来を担う子どもたちを支援

恵比寿で開催する「恵比寿麦酒祭り」での生ビールの売上金のすべてを東北復興支援に寄付しています。その一部900万円は、被災地の子どもたちが“学ぶ場”であり、心のケアも行う「コロボ・スクール」(放課後学校)へ継続的に支援しています。



適正飲酒啓発活動



Case 03

大学での適正飲酒啓発セミナー開催

サッポロビールでは、学生が社会に出てお酒と健康的に楽しく付き合えるように、首都圏を中心とした5つの大学でセミナーを開催しました。



専修大学でのセミナー

Case 04

海水浴場での“飲酒マナー向上”活動を支援

サッポロホールディングスでは、「飲酒マナー」向上をめざし、NPO法人日本ライフセービング協会が主催する海水浴場などでの事故を未然に防ぐ活動を支援しています。



千葉県御宿町でのイベントで配布されたチラシ

青少年育成



Case 05

ビヤホールの現場で職場体験

サッポロライオンでは、毎年地域の中学校や調理専門学校の職場体験学習に協力しています。2015年は11店舗で14校51名の生徒を受け入れました。生徒たちは厨房で調理の補助をし、ホールの接客にもチャレンジしました。

銀座ライオン アトレ恵比寿店



Case 06

発展するベトナムを支える人財育成支援

サッポロベトナムでは、ベトナムの経済発展を支える次世代育成のため、2013年から毎年ベトナムの優秀な大学生に奨学金を支給しています。2015年は10名に総額1億ドン(日本円で約50万円)を支援しました。



Case 07

オレンジリボン活動(児童虐待防止啓発活動)を支援

ポッカサッポロは、全国で「オレンジリボン活動」を支援しています。本社所在地の渋谷区でも、区内の公園などに設置した45台の自動販売機の売上金の一部約56万円を地元NPOに寄付しました。



Case 08

沖縄での次世代育成支援

缶入り“さんぴん茶”の元祖である沖縄ポッカでは、多くのゴルフ選手を輩出した「沖縄ポッカ杯」などで19年続けて子どもたちのスポーツ支援を行っています。創業68年を迎えるアイスクリームメーカーのフォーモストブルーシールでは沖縄県内の保育園などで大型絵本の読み語りを8年前から始め、2015年は100回を超えました。



大型絵本の読み語り活動

地球温暖化防止

Case 01

カーボン・オフセットで北海道の森を元気に!

サッポロビールとポッカサッポロでは商品で、サッポロライオンでは販売した生ビールで、カーボン・オフセット※を利用して北海道の森林保全活動を毎年支援しています。ビールやワイン、清涼飲料水などの商品では、北海道、生活協同組合コープさっぽろと「北海道の森を元気にしよう!」共同キャンペーンを3年連続で実施しました。

※ カーボン・オフセット:

自らが排出したCO₂を、ほかの場所で削減された量や、吸収された量を購入することで相殺する方法。



Case 02

瀬戸内の里山・里海の環境保全活動に参加

ポッカサッポロは、愛媛・香川・岡山の地元スーパーなどと共同で、カーボン・オフセット対象商品の売り上げに応じて同地域の環境保全が推進される「瀬戸内里山・里海どんぐり大作戦」に参加しました。本事業は第5回カーボン・オフセット大賞経済産業大臣賞を受賞しました。



3Rの推進

Case 03

今年も全工場で廃棄物を100%リサイクル

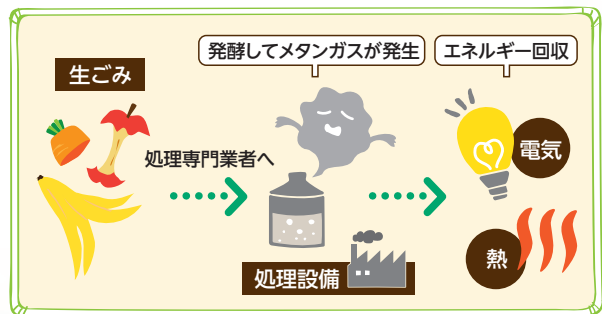
サッポロビールとポッカサッポロは、全工場で生産にともなう廃棄物を2015年も100%リサイクルしました。



Case 05

“食べ残し”も自然にやさしく

サッポロライオンでは、食を扱う企業として、調理残渣などの生ごみを減らす取り組みをしています。一部の店舗では、生ごみを外部に委託して電気と熱にリサイクルしています。



Case 04

ビールのアルミ缶を軽くする!

サッポロビールでは、2012年からビールのアルミ缶を軽くする取り組みを進めています。缶胴のアルミ使用量を350ml缶で4.4%、500ml缶で3.2%削減。2016年までにすべてのビール商品で軽い缶胴に変えていきます。



自然との共生

Case 06

森林を守る「カートカン」を取り扱って20年

ポッカサッポロは、森林を保全するために伐採した国産の間伐材を一部使用した紙容器「カートカン」を使用した商品を1996年に国内飲料メーカーで初めて採用しました。売り上げの一部を森林保全活動を行う「緑の募金」に寄付しています。



Case 08

子どもたちへの自然教育

サッポロビールでは、大麦の種まき会や工場内のビオトープ園に生息する生物の観察会などの環境イベントを毎年開催しています。



群馬工場:
大麦の種まき会
(岡山大学と共催)



静岡工場:
親子自然観察会

Case 07

都市緑化推進 恵比寿ガーデンプレイス 「都市のオアシス」認定!

恵比寿ガーデンプレイスは、敷地内における緑化推進活動への取り組みが認められ、公益財団法人都市緑化機構が行う「都市のオアシス」の認定を受けました。



都市のオアシス認定証

サッポログループの挑戦

サッポログループでは「新しいNO.1」となる商品やサービスの創造と提供を積み重ね、世界各地で、お客様の豊かな生活のためになくてはならない企業をめざしています。



挑戦1

「原料へのこだわり」から、新たな価値へ！ ～大麦、ホップ、レモンの新しい可能性を引き出す～

創業以来、原料にこだわる思いは独自の原料調達システムである「協働契約栽培」のみならず、「原料素材研究」でも発揮され、主要商品で使用される大麦、ホップ、レモンの新たな健康機能など、幅広い研究を続けています。今後も、原料そのものの可能性を広げ、お客様に新しい価値を提案できる商品づくりに取り組んでいきます。



大麦

ビールのおいしさの一つである泡持ちの良さにつながる大麦品種の改良や、大麦由来の植物性乳酸菌による腸内を整える機能を見ました。



レモン

殺菌による風味低下を抑える交流高電界殺菌法を実用化したほか、日本最大のレモン産地である広島県とのパートナーシップ協定のもとに、県の研究機関との共同研究を進めています。



協働契約栽培とは

麦芽とホップの100%協働契約栽培化から10年

「協働契約栽培」とは、①産地と生産者が明確であること、②生産方法が明確であること、③サッポロビールと生産者の交流がされていること、を3本柱にした世界でも類を見ない原料調達の仕組み。国内外すべての産地をフィールドマンと呼ばれる原料の専門家である社員が直接訪問。積極的なコミュニケーションにより、安全・安心で高品質な原料を安定的に調達しています。またワインづくりでも、プレミアム日本ワイン「グランポレール」の一部商品に協働契約栽培のぶどうを使用しています。ビールづくりに欠かせない麦芽とホップの100%協働契約栽培化から10年。これからもおいしいビールを原料づくりから取り組んでいきます。

LOXレス大麦研究で日本育種学会賞受賞

サッポロビールでは、ビールの香味劣化の原因となる大麦の酵素「リポキシゲナーゼ-1 (LOX-1)」を持たない大麦（「LOXレス大麦」）の育種研究と生産普及活動を続けています（岡山大学、カナダのサスカチュワン大学、オーストラリアのアデレード大学との共同）。このたび、長年の研究と普及実績が認められ、2015年度日本育種学会賞を受賞しました。

受賞名 「リポキシゲナーゼ欠失変異を利用した高品質ビールオオムギ品種の育成」



LOXレス大麦を原料とした「旨さ長持ち麦芽」を100%使用の「サッポロ生ビール黒ラベル エクストラブリュール」

世界が認める原料研究の成果

自社開発ホップが世界のクラフトビールで採用

サッポロビールでは世界で唯一、大麦とホップの開発・育種研究センターを備えています。そこで開発されたホップ品種「ソラチエース」は特徴的な香りと高貴な苦味をもつ品種として、アメリカで注目を浴び、今ではヨーロッパ、オセアニア、南米など、世界中の醸造所で使用され、世界のクラフトビール文化の発展に寄与しています。



ソラチエース

2009年の世界初「宇宙ビール」に続く、「麦とホップ Space Barley (スペースバーレイ)」の製造

岡山大学とロシア科学アカデミーの共同研究でサッポロビール開発の大麦品種が宇宙実験に採用されています。この大麦から増殖した「宇宙大麦」を使用した「サッポロスペースバーレイ」を世界で初めて2009年に発売し、今年は「宇宙大麦」の麦芽を一部使用した「麦とホップ Space Barley」(キャンペーン景品)を製造します。世界で唯一、宇宙で大麦とホップの実験に参画したサッポロビールならではの取り組みです。



「麦とホップ Space Barley」

挑戦2

ダイバーシティの推進 “越境せよ!”

グローバルに事業を展開するサッポログループでは、自分の壁、組織の垣根、事業や国の境界を越えていく意味を含めた「越境せよ」を人事戦略の基本理念として掲げ、あらゆる多様性を尊重し、認め合い、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる環境の整備を進めています。2015年をグループ全体の「ダイバーシティ元年」として、新たな人事制度を導入するなど、従業員のチャレンジを支援しています。



Support 海外で活躍する人財を育成

サッポログループでは、海外で活躍できる人財の育成の研修を毎年実施。海外で実地研修を行うグローバルビジネスの習得プログラムを展開しています。



Support 女性のキャリアアップを支援

サッポロビールでは、仕事と家庭の両立などの悩みに耳を傾け、活き活きと働き続けることを考える女性キャリアアップセミナーを開催しています。

